

いる。この賦の最後に、「退求己而自省、信用薄而才劣。奉周任之格言、敢陳力而就列。幾陋身之不保。尚奚擬於明哲。仰衆妙而絶思、終優遊以養拙」の一文が載る。一七九句にはこうした詩情が投影されている。

⑰ 一八〇句目「張衡豈廢田」について

この一句は、張衡の「歸田賦一首」を踏まえている。

そしてこの賦の最後に、「苟縦心於物外、安知榮辱之所如」の一文が載る。一八〇句にも、こうした詩情が投影されている。

⑱ 一八一句目「風摧同木秀」について

この句には次の故事の投影がある。

『文選』「運命論一首、李蕭遠」

故木秀於林、風必摧之、堆出於岸、流必湍之、行高於人、衆必非之。(傍線筆者)

『白氏文集』「0608 代書詩一百韻、寄微之」の「木秀遭風折、蘭芳遇霰萎」(傍線筆者)の句。

⑲ 一八二句目「燈滅異膏煎」について

『莊子』「内篇人間世第四」

山木自寇也、膏火自煎也。(傍線筆者)

⑳ 一九五句～一九六句「縱使魂思峴、其如骨葬燕」の二句に込められた「羊祜」の故事